

# 大阪大学教員 出版支援制度

## 募集要項

### 1 制度の目的

大阪大学において研究に従事する教員の優れた研究成果を、学術図書として出版することを大阪大学及び大阪大学出版会（以下「出版会」とする）が支援することにより、大阪大学における研究活動の推進と研究成果の普及に資することを目的とする。

### 2 支援の対象

#### A部門：若手部門（5点）

応募時に大阪大学に所属する専任及び特任の若手教員（大学及び研究機関等における研究経歴の年数を基準とし、概ね20年以下とする）の論文等をもとにした出版企画で、部局での選考を経たもの。

#### B部門：一般部門（5点）

応募時に大阪大学に所属する専任及び特任の教員（但しA部門の「若手教員」の要件に該当しない者）の論文等をもとにした出版企画で、部局での選考を経たもの。

### 3 審査・選考

- 出版会へ応募する出版企画の審査・選考は、下記「完成した原稿等」を執筆した教員の所属する部局が行う。平成29年度における各部局からの応募は、A部門3点まで、B部門1点までとする。
- 部局を通じて応募された出版企画は、大阪大学の教員によって組織される大阪大学出版会出版委員会において最終選考を行う。
- 選考結果は、最終選考後、平成29年10月末日までに当該部局の長及び著者（共著の場合は代表者）に対し、出版会から通知する。

### 4 支援の内容等

- A部門については、大阪大学未来基金が1点当たり100万円の制作費を助成する。
- A部門の上記(1)を超える制作費及びB部門の制作費については、出版会が負担して学術図書として出版し、頒布を行う。

但し、いずれの場合も、出版部数、定価及び出版形式等は出版会が決定する。

### 5 応募にあたっての注意

- 「完成した原稿等」は、著者の研究活動成果としての未発表の論文またはそれに準ずる論文等に基づいたものとし、応募後に校正の範疇を超えて修正する必要のないものとする。
- 執筆、校正及び転載にかかる著作権処理は著者の責任において行うが、出版会は、採択後に学術図書として出版するために必要な編集や、著者に対する原稿修正の要請を行うことがある。
- 著者が(2)による修正等を経たうえで、出版期日までに出版することが困難と見込まれる原稿は応募しないこと。
- 「完成した原稿等」は、Word等の文書データおよびjpg等のモノクロ画像データ（図）、Excel等の表データ（表）の状態で作成しておくこと。なお、応募時には印刷物のみを提出する。
- 初刷についての著作権使用料（印税）は発生しない。なお、出版後の著者献本はA部門10冊、B部門5冊とし、選考部局への献本は1冊とする。
- 著者が自著を購入する場合の価格は、定価の80%とする。

## 6 応募方法

各部署は、該当する出版企画があった場合、平成 29 年 8 月末日までに、「出版企画書」と「応募者の研究歴」を E メール (shien@osaka-up.or.jp) にて送付し、「完成した原稿等」の印刷物 1 部を出版会に提出する。

「出版企画書」と「応募者の研究歴」の様式は大阪大学出版会 HP (<http://www.osaka-up.or.jp/shien.html>) からダウンロードし、合計 4 ページ以内 (両面印刷) に収めること。

また、「完成した原稿等」は A4 サイズで散逸ないようにファイリングまたは簡易製本すること。

## 7 出版期日

出版会は著者の協力のもとに、平成 30 年 9 月末までに出版する。

## 8 応募・問い合わせ



大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-7 大阪大学ウエストフロント (学内便可)

電話：06-6877-5405 (編集部) e-mail (出版支援制度)：shien@osaka-up.or.jp

HP：http://www.osaka-up.or.jp/shien.html (「大阪大学教員出版支援制度」)

## 大阪大学教員出版支援制度による既刊書名一覧

2017年3月現在

	教 員 名	書 名
A 部 門	山 上 浩 嗣	パスカルと身体が生
	岡 本 淳 子	現代スペインの劇作家アントニオ・ブエロ・バリェホ —— 独裁政権下の劇作と抵抗
	歳 岡 冴 香	A Study on Metaphorical Evaluation in Written Texts from a Perspective of Cognitive Linguistics
	中 村 未 来	戦国秦漢簡牘の思想史的研究
	酒 井 裕 美	開港期朝鮮の戦略的外交 —— 1882 ~ 1884
	小 河 久 志	「正しい」イスラームをめぐるダイナミズム
	松 田 岳 士	イタリアにおける刑事手続改革と参審制度
	韓 喜 善	韓国語ソウル方言の平音・激音・濃音の研究
	名 津 井 吉 裕	民事訴訟における法人でない団体の地位
	竹 中 菜 苗	暗闇への探究 —— 循環する闇と光の心理臨床学的研究
	林 葉 子	性を管理する帝国 —— 公娼制度下の「衛生」問題と娼娼運動
	中 久 保 辰 夫	日本古代国家の形成過程と対外交渉
B 部 門	湯 浅 邦 弘	竹簡学 —— 中国古代思想史の研究
	藤 川 信 夫	教育/福祉という舞台 —— 動的ドラマトゥルギーの試み
	金 崎 春 幸	フローベール研究 —— 作品の生成と構造
	三 阪 佳 弘	近代日本の司法省と裁判官 —— 19 世紀の日仏比較の視点から
	村 岡 貴 子	専門日本語ライティングの教育 —— 論文スキーマ形成に着目して
	渡 辺 克 昭	楽園に死す —— アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア
	荘 司 育 子	日本語の統語的原理 —— 「収束」と「展開」
	工 藤 真 由 美	日系移民社会における言語接触のダイナミズム —— ブラジル・ボリビアの子供移民と沖縄系移民
	大 久 保 規 子	緑の交通政策と市民参加 —— 新たな交通価値の実現へむけて
	志 水 宏 吉	マインド・ザ・ギャップ! —— 現代日本の学区力格差とその克服
	Agnès Disson	Essais sur la poésie française de l'extrême contemporain, 1980-2015
	有 川 友 子	日本留学のエスノグラフィー —— インドネシア人留学生の 20 年
	本 間 正 明	医療と経済
秦 か お り	出産・子育てのナラティブ分析 —— 日本人女性の声にみる生き方と社会の形	
平 田 健 治	事務管理の構造・機能を考える	